

CSR report 2016



エイベックスが大切にしていること

めまぐるしく変化する社会の中で、
私たちは総合エンタテインメント企業として何ができるのだろうか、
常に考え続けてきました。

寄付やボランティアといった活動は、
エイベックス・グループとしても日常的に行っています。
でも、それは企業として当たり前のことだと思っています。

私たちの本業は、人々に感動を与えること。
共感を起し、希望を与え、生きる喜び、そして未来への夢を与えること。
誤解を恐れずに言えば、事業そのものがCSRなのかもしれません。

そのためには、エンタテインメントを創り出す人々の環境を整えること。
つまり、社員一人ひとりがいきいきと働けるエイベックスであり続けること。
それもCSRだといえるはずです。

私たちが持つすべてのノウハウを生かし、人の感情を揺さぶる、
エイベックスのエンタテインメントにしかできないCSRを追求していきます。

いつの時代も、一人ひとりに寄り添う、
エンタテインメントを。

エイベックス・グループの社会的責任

エイベックス・グループでは、
国際規格ISO26000の原則に従い、
事業を通して社会的責任を果たすため「3つの軸」を規定し、
さまざまなCSR活動を展開しています。

エイベックスのCSR “3つの軸”

地球の未来に
向けて

環境

for environment

社外に向けて

公正な事業慣行
消費者課題
コミュニティへの参画および
コミュニティの発展

for society

従業員に向けて

人権
労働慣行
組織統治

for staff

エイベックスによる復興支援活動

ダンスを通じて被災地の子どもたちを笑顔に



「親子体操」ふくしま元気UPプロジェクト開催への協力

エイベックスでは、「エンタテインメントを通じて感動や夢を届けたい」という想いのもと、東日本大震災の被災地への復興支援活動を続けています。2015年3月からは、福島民友新聞社と協力し、福島県内6会場で「親子体操」を実施。子どもたちの運動不足を解消するとともに、離れ離れで避難生活が続いている親子の絆をさらに深めるダンスイベントを開催しました。全7回のイベントに約1,740名の親子が来場し、ダンスを楽しんでいました。



子どもたちに「体を動かす楽しさ」を伝えられた。

福島民友新聞社 東京支社 営業部長 平田 哲様



いることを知り、私たちのプロジェクトの意図を伝えたとこ協力してもらうことができました。

ダンスの楽しさも伝えることができた

2015年3月の福島市でのキックオフイベントを皮切りに、郡山市、白河市、会津若松市など県内6会場で親子体操を開催。JSDA（日本ストリートダンス協会）公認ダンサーの方に来県していただき、ダンスの楽しさを教えてもらいました。そして12月の総括イベントでは、Prizmy☆さんの歌とダンスも披露され、普段なかなか見ることができないアーティストのステージに、子どもたちも喜んでいました。プロダンサーには技術的なことだけでなく笑顔で楽しく踊ることも教えてもらい、震災で辛い思いをしていた子どもたちもダンスを楽しめたのではないかと思います。

イベントで親子の絆を深めていきたい

ダンスを通じて体を動かすことの大切さを伝えるとともに、親子の絆づくりも達成できたのではないかと思います。また、今回のイベントをきっかけにダンスに興味を持ったという意見が多く寄せられました。当社では2016年を「自ら立ち上がる年にしよう」と考えており、子どもたちが自信と誇りをもてる新しい福島をつくるべく、さまざまなプロジェクトを検討しています。今後も、エイベックスと協力しながら、親子の絆を深めるイベントを開催していきたいと考えています。

2015年度も、被災地の小・中学校でダンスを教えました。

2014年1月からは南相馬市の小・中学校21校に、毎月4～5タイトルの音楽CDを寄贈するなど、さまざまな支援活動を行っています。また、2014年6月からはプロダンサーの派遣を開始。ダンスを通じての運動不足解消はもちろん、エンタテインメント

への理解を深めてもらい、普段の生活にも充実感を持ってもらうことを取り組んでいます。この活動は2015年度以降も継続し、より多くの小・中学生に元気を届けます。

2015年度ダンサー派遣実績(計12校)	
10月	八沢小学校・原町第三中学校
6月	原町第三小学校・小高小学校
7月	大甕小学校・原町第三小学校
8月	原町第二小学校・原町第一中学校
9月	石神中学校・鹿島中学校
11月	原町第一中学校・鹿島中学校
12月	太田小学校・石神第一小学校
1月	小高小学校・石神中学校
2月	高平小学校・石神第一小学校



JSDA
公認ダンサーによる
ダンスレッスン

エイベックスによる障がい者スポーツ支援活動

チャレンジド・アスリートをサポートしています



所属選手・チーム*	高田 裕士	佐藤 圭一	上村 知佳	上地 結衣	木山 由加	正木 健人
	三枝 浩基	高桑 早生	池 愛里	半谷 静香	金持 義和	峰村パラスイムスクワッド

※2016年5月末現在

アスリートが競技に集中できる環境を

エイベックスでは2008年より、障がいを持ちながらもトップアスリートとして活躍している選手を積極的に雇用。現在では8競技11名+1チームの選手の活動をサポートしています。2015年4月には(公財)日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナー契約を締結。また、チャレンジド・アスリートの練習環境のサポートにおける先進的な取り組みや、チャレンジド・

アスリートに関する社内への情報発信、社員向けのヨガレッスンの実施など、スポーツ分野における社会貢献活動も高く評価され、「平成27年度東京都スポーツ推進企業」に認定されました。これからもチャレンジド・スポーツを身近に感じていただき、皆さまに夢と感動をお届けできるようさまざまな活動を推進していきます。

2015年度 エイベックス・チャレンジド・アスリートの主な活動と選手の活躍

- ★エイベックス・グループ・ホールディングスが(公財)日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結(4月)
- ★上地結衣「車いすテニス(女子)最年少グランドスラム達成」ギネス世界記録認定(9月)
- ★木山由加/高桑早生、IPC陸上競技世界選手権 銅メダル獲得(10月)
- ★エイベックス/イオンモール共催「世界トップアスリートと障がい者スポーツを体験しよう」アイススレッジホッケー体験会(12月)
- ★エイベックス・グループ・ホールディングスが「平成27年東京都スポーツ推進企業」に認定(12月)
- ★国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会協賛(2月)



障がい者スポーツを通して夢と感動を伝えたい。

車いす陸上 木山 由加



競技だけに専念できる環境が必要だった

エイベックスに入社する前は、一般企業で事務をしながら競技を続けていたため、仕事が終わってから近くの競技場に行き、2時間ほどしか練習できない状況でした。2010年の広州アジア

パラ競技大会で日本代表として世界の選手と戦ってみて、この練習量では世界に勝つことはできないと思い、十分な練習時間が確保できる環境を探していました。そんなときにエイベックスに出会ったのですが、競技だけに専念できることはもちろん、スポーツもエンタテインメントとしてとらえているところに強く共感し、ご縁もあってエイベックスの社員になりました。

音楽のパワーを、競技に、人につなげたい

入社後は競技で結果を残すことが仕事になったので練習時間が大幅に増えました。また、気持ちに余裕が生まれたことで、自分の障がいや体調にも気を配れるようになりました。今は今年9月に開催されるリオデジャネイロパラリンピック、そして2020年の東京パラリンピックでのメダル獲得を目標に練習を重ねていますが、走っている私の姿を見てもらうことで、同じ病気の人や障がいのある人を勇気づけられたら嬉しいです。私は競技がはじまる前に音楽を聴いて気持ちを高めているのですが、音楽でもらったパワーを競技の結果につなげ、さらに競技を見ている人のパワーにつなげることができたらいいなと思っています。これからも一人のアスリートとして、また感動体験を提供するエイベックスの社員として、たくさんの人に希望と夢を与えていきたいです。

「障がい者スポーツの啓発」への取り組み

「世界トップアスリートと障がい者スポーツを体験しよう」というテーマで、アイススレッジホッケー体験会を、エイベックス・グループ・ホールディングスとイオンモールの共催にて開催しました。イベントはアイススレッジホッケー日本代表選手のデモンストレーションからスタート。子どもを中心に約30名の参加者が集まり、選手たちが参加者一人ひとりにスレッジの操作方法などをレクチャーしました。普段はなかなか体験することのできないアイススレッジホッケーを家族全員で楽しめるとあって、参加者は終始笑顔でした。会場ではアイススレッジホッケーについての解説と元日本代表選手の馬島さんのトークショーが行われ、競技の特徴やパラリンピックへの挑戦などアイススレッジホッケーの魅力が紹介されました。2016年度もチャレンジド・アスリートと楽しむ体験型イベントは継続され、より多くの人に障がい者スポーツを知ってもらえるよう活動を続けてまいります。



社内での環境への取り組み

社内におけるエコ活動

エイバックスでは社員が働きやすい快適なオフィス空間を実現すると同時に、地球環境にやさしい会社であり続けるため、さまざまなエコ活動を推進。社内朝礼放送や社内報での啓蒙活動をはじめ、社員一人ひとりの小さな取り組みから会社全体での取り組みまで継続的に実施しています。



社内朝礼放送

保護(まもる)くんの導入

社内の機密文書の処理に専用のプロテクションツール「保護(まもる)くん」を導入。機密保持とリサイクルの両立を実現し、2015年度は338本分の森林伐採抑制に貢献しました。



機密書類等を回収



「保護(まもる)くん」で保管



厳重なセキュリティ管理のもと輸送、処理施設にて破碎。その後、紙の繊維を活かすことで、再生紙に生まれ変わります。

エコバッグの導入

「備品を大切に使う意識を持ってほしい」という観点から、社内で書類などを運ぶ際に使用される袋に「エコバッグ」を導入しました。



オリジナルエコバッグ

環境配慮型の新社屋

現在建設中の新社屋は、省エネに配慮した設計になっているほか、工事段階においてもゼロエミッション、分別100%を目標に、環境・近隣への配慮も徹底して行っています。



建設中の新社屋
(2017年竣工予定)

ペーパーレス化の促進

googleドライブ活用促進の社内研修を実施し、パソコンでの文書閲覧・共有・保管を徹底することで、ペーパーレス化を推進しています。

再生紙の使用拡大

コピー用紙は再生紙を積極的に採用。また、社員の名刺にも再生紙を使うなど、使用率を高めています。

ゴミ・資源分別の徹底

環境への意識向上と資源リサイクル率を高めるため、紙やペットボトル、缶やビンの分別を徹底しています。

その他の環境活動

CDパッケージでの環境活動

「commons for GREEN」の合言葉のもと、名実ともにグリーンレーベルとして歩みはじめたcommons^{※1}では、2008年より同レーベルでリリースしたすべてのパッケージ商品をカーボンオフセット^{※2}CDとしてリリースしています。なお、commonsオフィス内の照明はすべてグリーン電力を使用し、環境への配慮を行っています。



※1 坂本龍一をはじめとするアーティストたちが、音楽の新たな可能性を模索すべく、当社グループとともに設立した新プロジェクト。エコロジカルな視点を持ち、社会・文化貢献を目指す新しい音楽コミュニティとして、アーティスト/クリエイター、音楽産業、ユーザー/リスナーのよりよい関係を作るための「共有地(common)」となることを目的に活動

※2 日常生活において排出したCO₂をオフセット(相殺)するために、森づくりや自然エネルギーを導入すること

2

イベントでのエコ活動

当社グループが毎年夏に開催している野外ライブイベント「a-nation」では、エコステーション活動を実施しています。これはコミュニティエリア内に設置されたエコステーションでゴミの回収・分別を行い、多くのゴミを持ってきていただいた来場者にボンフィン(ミサンガ)をお渡しするというものです。国立代々木競技場園地で行われた「a-nation island」では

4カ所、「a-nation stadium fes.」を開催したヤンマースタジアム長居では8カ所、味の素スタジアムでは6カ所のエコステーションを設置。回収されたゴミは、可燃・不燃・ペットボトルとそのキャップ・ビン・カンに分別し、ペットボトルは帝人のリサイクル循環システムを活用し、次年度のエコボランティアユニフォームやボンフィンとして再生させています。

リサイクルの流れ



エコステーションにてお客さまからゴミを回収



スタッフが、ゴミをお持ちいただいた方にボンフィンを配布



回収したゴミは分別され、ペットボトルは帝人松山工場へ



次年度のボンフィン・エコボランティアユニフォームに生まれかわる

3

次世代育成への取り組み

中学生の職場訪問受け入れ

当社グループでは、“職業としてのエンタテインメント”の魅力を伝えるべく、中学生の職場訪問を積極的に受け入れています。当社グループの歴史、エイベックスの仕事内容

など、ビデオや資料を交えながら講義や、スタジオの見学をしています。2015年度は22校214名が全国から訪れました。

参加学生の声

ライブの裏方で頑張っている人の仕事を知れてよかったです。

実際にスタジオを見学できたので、音楽に関わる仕事に興味を持った。

一つの会社でも、たくさん種類の仕事があることがわかった。

エンタテインメントの仕事は人を笑顔にできると知って、憧れを持った。

無料ダンス選手権の開催

2012年度より中学校でダンスが必修科目となったこととともない、次世代を担う子どもたちがダンスの楽しさを少しでも感じられるよう、全国の高等学校のダンス部を対象とした選手権「DANCE CLUB CHAMPIONSHIP」を開催しました。本コンテストはエントリー費・来場費ともに無料で、ダンススキルを競い合うだけでなく、参加校が

自分たちで決めた「漢字二文字」を表わすための、プログラム構成や表現力も審査の大きなポイントとしました。8月には、予選の映像審査を勝ち抜いた36校が全国から集まり、a-nation islandのステージで決勝大会を開催。ダンスへの想いをぶつけました。
(応募人数：高等学校=623名)

2015年度に実施したダンサー派遣

地域	主催	対象	回数	人数
埼玉	埼玉県女子体育連盟南部地区	埼玉県内高等学校・特別支援学校の体育教員	1	30
兵庫	スポーツクラブ21 西宮浜	西宮浜地区の皆様	1	38
大阪	泉州保育士会	泉州地区の保育士	1	223
福岡	福岡市教育委員会	粕原中学校生徒	6	200
福岡	福岡市教育委員会	平尾中学校生徒	9	250
福岡	福岡市教育委員会	住吉中学校生徒	6	87
福岡	福岡市教育委員会	城西中学校生徒	9	250
福岡	福岡市教育委員会	田隈中学校生徒	6	200
福岡	福岡市教育委員会	金武中学校生徒	6	200
福岡	JSDA/福岡市教育委員会	福岡市小中学校体育教員	2	29

アーティストへの取り組み

デビュー前のアーティスト育成について

エイベックスでは、デビュー前のアーティスト・タレント予備軍に対し、無料でレッスンやライブ、音楽制作支援などを行い、活動支援契約者としてデビューまでのエンタメ活動全般をバックアップしています。これを未来のエンタメ業界における優秀人材への投資とも考えて継続的に実施。現在は全世界に200名強が在籍し、2016年度には40名以上がデビューまたは専属契約を予定しています。半年に一回、全国5都市を育成担当者が回って、活動支援契約者とその親御さん同席のもと、スキルチェックと面談を行っています。そこではスキルアップ進捗の共有だけでなく、食生活やメンタル面の指導、未成年者については進路相談などもあわせて行います。アーティスト、ご家族、育成担当者、3者の信頼関係こそが最適な育成環境を構築すると考え、基本学力も保持しながらの“文芸両道”を目指しています。これは、活動支援契約者の人生の一部を背負っているという想いを強く持っているからです。

アーティストの発掘からデビューまで

オーディション、スカウト、アカデミー生などから人材を選定

アーティスト活動支援契約を締結

育成期間 平均2~3年

社内外の新人デビュープロジェクト
担当者へプレゼンテーション

専属マネジメント契約、または専属実演家契約が決定

デビュー

アーティストの前に人間としての教育

エンタテインメント教育は机上の学習とは異なり、人と人とのコミュニケーションのなかで進められていきます。仲間やライバル、クライアントや担当スタッフなど、たとえ若いアーティストでも大人としての対応を求められる場面も多く、“自分は誰に何を求められているのか”“自分の長所は何か”、などを強く意識しながら成長していきます。また、“人としての成長なくして人に感動を与えるエンタテイナーになることはできない”という考えから、レッスンよりも「教育」という観点を重視し、礼儀やあいさつ、感謝する気持ちなどの心得を提示。これらの教育を行うことにより、レッスンの場だけでなく普段の生活においても成長がみられたという話も、多くの親御さんにいただいています。

活動契約支援者心得

- 礼儀とあいさつを大切にすること
- 時間と約束を厳守すること
- 感謝の気持ちを持つこと
- レッスンに対する真面目な姿勢を持つこと
- 相談すること



レッスン風景

お客さまと社会への取り組み

1 お客さまの声を蓄積する仕組み

お客さま対応の基本は、「エイベックスは問い合わせをすれば必ず返ってくる」と感じていただくことです。そのため、折り返しご連絡をするにしても、すぐに回答できるにしても、まず“ワンアクションを素早く行う”ことをモットーにお客さまに対応しています。エイベックスには毎日、電話やメールを通してたくさんの声が寄せられます。その数は、電話で月に約7千件、メールで約2万件にも及びます。これらのさまざまなご意見やご要望は、社内システムに毎朝アップロードし、全社員が閲覧できるようにしています。こうすることで、どんな施策に対してお客さまからどのような声が寄せられたかを共有することができ、同種の施策に対して同様の問題が起きることを未然に防いで

います。またエイベックスは、運営を担うアーティストのファンクラブごとに個別電話回線を設けています。これは「問い合わせをしたいが、なかなか電話が繋がらない」というお客さまのご不満をできるだけ減らすことを目的としており、専用回線だけで30回線以上を設置しています。

お客さまから寄せられる声に対する弊社の対応



2 学校給食プログラムへの支援

「子どもを空腹のまま、学校に通わせてはならない」とのWFP(World Food Programme)の趣旨に賛同し、継続的に支援しています。具体的には、本社に設置してある自動

販売機で飲料を購入することで、1本につき10円がWFPに寄付されます。この取り組みは2010年より継続しており、2016年3月末時点で総額は9,442,820円となりました。

3 アジア国際子ども映画祭

「アジアの子どもたちに夢やエンタテインメントを届けたい」という趣旨に賛同し、これまで5年間に渡り、アーティストの出演協力や協賛、委員会への参加を行いました。

アジア国際子ども映画祭とは・・・

「子どもたちの心の中に内視鏡を入れよう」をコンセプトに子どもたちが自ら制作した3分間の映像作品をコンテストする映画祭です。作品から見える子どもたちの想いを教育に活かすことも目的のひとつです。海外約17カ国・地域の子どもの来日し、交流も行います。



著作権への取り組み

1 「他人のものを盗むな」を基本に

当社グループでは、コンプライアンスポリシー「自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する」にのっとり、各種著作権への対応を行っています。映像・音楽商品の海賊版については、刑事・民事の両面から対応し、インターネットへの違法アップロードに対しては、法務部が

日々ネット上でチェックを行うとともに、社員や善良なファンの方からの報告を受けて、プロバイダに削除を依頼しています。それでも違法状態が続くようであれば、個人情報の開示請求を経て、訴訟に踏み切るケースもあります。

著作権への啓蒙活動

当社グループの著作権侵害対応だけではなく、当社グループが他者の権利を侵害していないかについても、できる限りのチェックを行っています。これらの取り組みの背景には「音楽創造のサイクルを絶やさない」という、日本レコード協会を中心とした音楽業界全体に共通した考え方があります。商品が適正に販売できない

状況にあれば、作詞・作曲家、アーティスト、レコード会社など、音楽にかかわる人々に正当な対価が支払われなくなってしまい、その結果、新しい音楽を生み出すことが難しくなってしまいます。そのため当社グループでも、著作権啓蒙ポスターの配布や、職場訪問で訪れた学生に著作権の重要性を伝える取り組みなどを行っています。



正規の音楽・映像配信サイトで表示される「エルマーク」

著作権侵害行為で、新しい音楽の創造が不可能に(参考:一般社団法人日本レコード協会)



対価が支払われないことにより、新たな音楽を作り、売るサイクルが成り立たなくなる

働きやすい職場づくり

ワークライフバランスの推進

当社グループでは、働く女性が仕事と育児を両立しながら自己実現できる場を提供すべく、積極的な女性支援策を講じています。2013年度には、厚生労働大臣認可の次世代認定マーク「くるみん[®]」マークも取得しました。

※「くるみん」マークは子育てをサポートしている企業であることを示すものです



「くるみん」マーク

ワークライフバランス推進状況

2015年度の産休取得者は25名、短時間勤務を選択中の女性社員は65名となり、女性社員の約13%が育児支援制度を利用しています。近年待機児童が社会的な問題となる中、

エイベックスでは「より働きやすい環境」づくりを目的に、社員だけでなく、地域の方も利用できる保育園「ポポラー」を誘致しています。今後も仕事と育児の両立を支援してまいります。

1

社員の健康促進

社員の健康促進を目的に、通常健康診断に加え、社内特別に保健師を呼びさまざまな健診を行っています。2015年度については、血液内の赤血球の流れから食生活について見直す「血液サラサラ検査」、体内の筋肉や脂肪などの

組織構成を調べ生活習慣病や体調の乱れを知る「体組成測定」、歯の健康状態や歯石の除去を行う「歯科健診」の3種類を実施しました。これらの健診には、多くの社員が自主的に参加し、健康についての理解を深めていました。

2015年度のおもな健康施策参加状況

健診	回数	参加人数
歯科健診	4	328
体組成測定	4	141
血液サラサラ検査	2	62



歯科健診の様子

健康保険組合の設置

当社は2012年6月1日に、音楽、映像コンテンツなどを提供するエンタテインメント業界としては初めて、厚生労働大臣の認可を受け「エイベックス・グループ健康保険組合」を設立しました。これにより保険料や健康診断実施項目

についても法的内容をさらに充実させた形で実施することができ、若い社員が多い当グループの実態に合った健康維持・増進の取り組みが可能となっています。(2015年度健康診断受診率:93%)

3

仕事と介護の両立セミナー・個別相談会開催

当社グループでは、2015年度も「仕事と介護の両立セミナー」を開催しました。実際に介護の現場を知る講師をお招きし、いざという時に慌てないための介護の基本をはじめ、介護保険制度の仕組みや仕事と介護の両立について、事例を交えながら解説。さらに希望者には個別相談の時間を設けました。今後も、働きやすい職場づくりを目指し、さまざまな取り組みを予定しています。



セミナーの様子

4

充実した研修制度

スキルアップを図るために、さまざまな研修を開催しています。

2015年度実施研修一覧

種類	対象者	名称・内容
階層別研修	新任管理職	新任課長職(マネジメント・リーダーシップ基礎)研修
	新卒入社4年目	新卒4年目研修
	新卒入社1年目	新入社員フォローアップ研修
	新卒内定者/新入社員	内定者・新入社員研修
知識・スキル系	若手一般職/基礎プログラム受講者	ロジカル・シンキング研修(基礎/応用)
	特定部門	権利ビジネス講習
その他	全社員	景品表示法セミナー/制作倫理講習会/独占禁止法講習会 Excel/PowerPoint スキルアップ研修
	新卒育成担当者	トレーナー研修(新人配属後約1年間をトレーナー制度期間とし継続的に研修・交流会)
	ワーキングマザー	ワーキングマザー向け育児両立セルフマネジメント研修
	ワーキングマザーの上司	ワーキングマザー上司向け研修
	中途入社者	中途入社者オリエンテーション(eラーニング)/中途入社者ランチ交流会
	全社員	講演会/コンプライアンス・ポリシーテスト

5

avex group家族感謝会を実施

2016年2月に今回で24回目となる「家族感謝会」を実施。このイベントは、日ごろからエイベックスを支えているグループ社員のご家族に感謝の意を込めて創業当初から行っております。会社の規模拡大と共に内容を変化させ今回は役職者とそのご家族を対象に実施。当日は、役員

からの挨拶、お子さま向けのステージ、お食事をしながらの歓談など、大人から子どもまで楽しめる内容で日ごろの業務とはまた違った社員同士の交流も見られる一日となりました。

6

エイベックスが守るべきルールとして

エイベックスでは、以下のコンプライアンスポリシーを、すべての行動・判断の基準に据え、事業活動を行っています。また、コンプライアンスポリシーを正しく理解できるよう、年に一度全社員を対象に確認テストを実施しています。

インチキするな。

1. 公正、透明、自由な企業間競争を行う。
2. 会社の正当な利益に反して、自己や第三者の利益を図るような行為を行わない。
3. 営業活動において、不正な手段は用いない。

人の金で遊ぶな。

取引先等と健全な商慣習や社会的常識を逸脱した交際をしない。

勘違いするな。

法令を遵守し、社会規範を尊重する。

他人(ひと)のものを盗むな。

自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する。

抜け駆けするな。

1. 仲間を支えられている自分、仲間を支えている自分を意識する。
2. インサイダー取引をしてはならない。

チームとしての誇りを。

1. 従業員が働きやすい職場環境を実現する。
2. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。

※コンプライアンスポリシー全文、コーポレート・ガバナンスはWEBをご覧ください。

弱いものイジメするな。

1. 人権を尊重し、差別につながる行為を行わない。
2. 取引先に対しては、良識と誠実さをもって接し、公平かつ公正に扱う。

ウソつくな。

1. 情報を的確に開示する。
2. 適正な宣伝・広告をする。

無駄づかいするな。

環境問題の重要性を認識し、会社の資産は有効に活用する。

「力」に頼るな。

1. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との関係を持たない。
2. 政治、行政と透明度が高い関係を構築する。

仲間を裏切るな。

1. 信用・信頼・名誉を損なう行動や発言をしない。
2. 企業秘密・個人情報とは適切に管理し、無断で会社外に開示・漏洩しない

そして、才能に愛と賞賛を。
(決して嫉妬ではなく)